

すかい

地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん
北信地区経済動向

2023
令和5年
10-20
No.614

「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけます。

景況調査レポート



赤とんぼ(アキアカネ)
夕焼け 小焼けの♪
背われて 見たのは
いつの日か♪

はね 翅を前方に倒して止まるのが特徴のアキアカネ。日本の秋を代表する赤とんぼです。信州では夏の暑い季節は、山地や高原地帯で避暑生活を送り、秋になると一斉に里へと下ります。当初は黄褐色だった体色も、寒くなるにつれ赤く変化していきます。まっすぐ前に飛ぶことから「不退転」の象徴として、多くの戦国武将に好まれた「勝ち虫蜻蛉」。勇猛な武将の甲冑かっちゅうや兜かぶとの飾りに見ることができます。「うろたへな 寒くなるとて 赤蜻蛉」 一茶 文化句帖

- 長野しんきん 景況調査レポート 2
- 企業アンケート「ポストコロナの企業経営」① 6
- 生活者アンケート「少子化問題」① 9
- 北信濃 明治時代の風景 (19) 石堂町周辺 10

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)

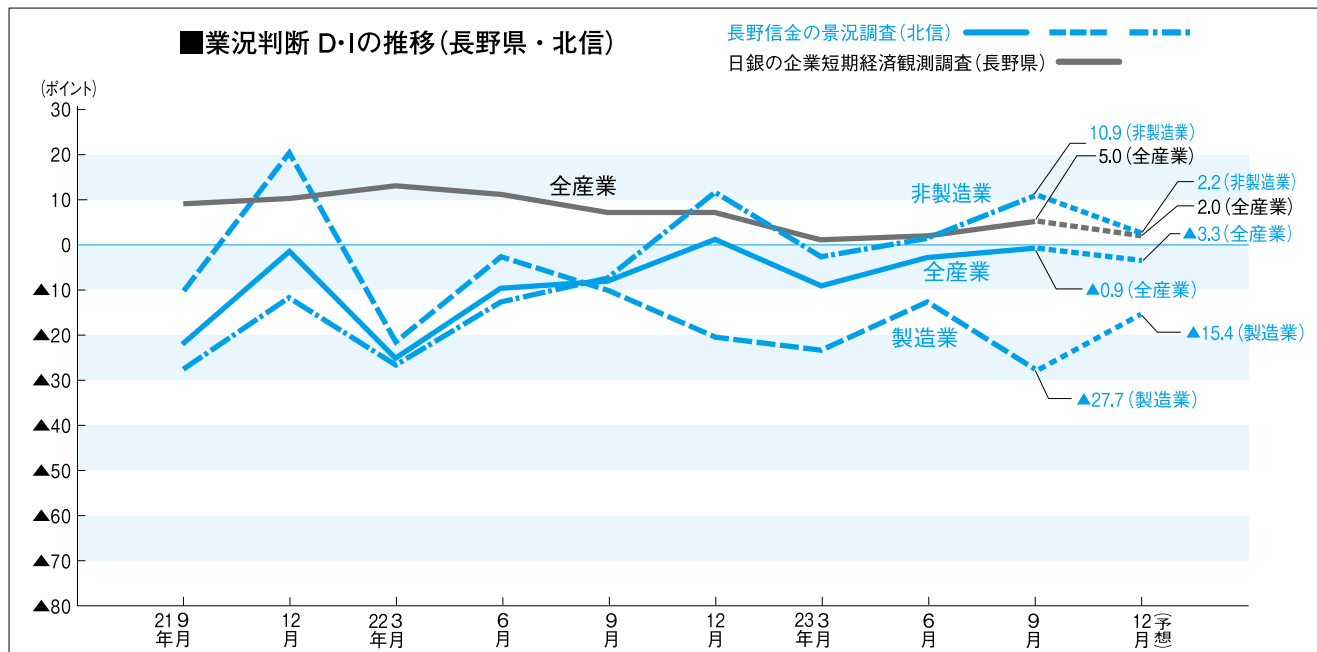


これからも、ずっといっしょに、このまちで

 長野信用金庫



◆長野県北信地区◆2023年7～9月期…景気の現状 ◇2023年10～12月期…景気の見通し



D・I指数は、業況について「良い」とする企業割合から「悪い」とする企業割合を引いた数値(四半期ごとに実施する景況アンケートに基づく)

全産業▲3 → ▲1 製造業は悪化、非製造業は改善

2023年7～9月期の業況判断D・Iは、全産業で2割改善して▲1となりました。製造業は15割悪化の▲28、非製造業は10割改善の+11です。

2023年10～12月期の全産業の業況判断D・I(予想)は、2割悪化の▲3となりました。

◆北信地区の7月～9月期の業況判断D・I

	前期	今期	来期(予想)
全産業	▲3	▲1 (2割改善)	▲3
製造業	▲13	▲28 (15割悪化)	▲15
非製造業	+1	+11 (10割改善)	+2

非製造業+1 → +11 全業種で改善

非製造業の業種別業況判断D・Iは、建設業が+11(前期比+16割)、卸小売業が+3(同+8割)、

◆非製造業の業種別業況判断D・I

	前期	今期	来期(予想)
非製造業	+1	+11 (10割改善)	+2
建設業	▲5	+11 (16割改善)	±0
卸小売業	▲5	+3 (8割改善)	▲15
サービス業	+17	+20 (3割改善)	+22

サービス業が+20(同+3割)となり、全業種で改善しています。

◆売上高D・Iと収益判断D・I

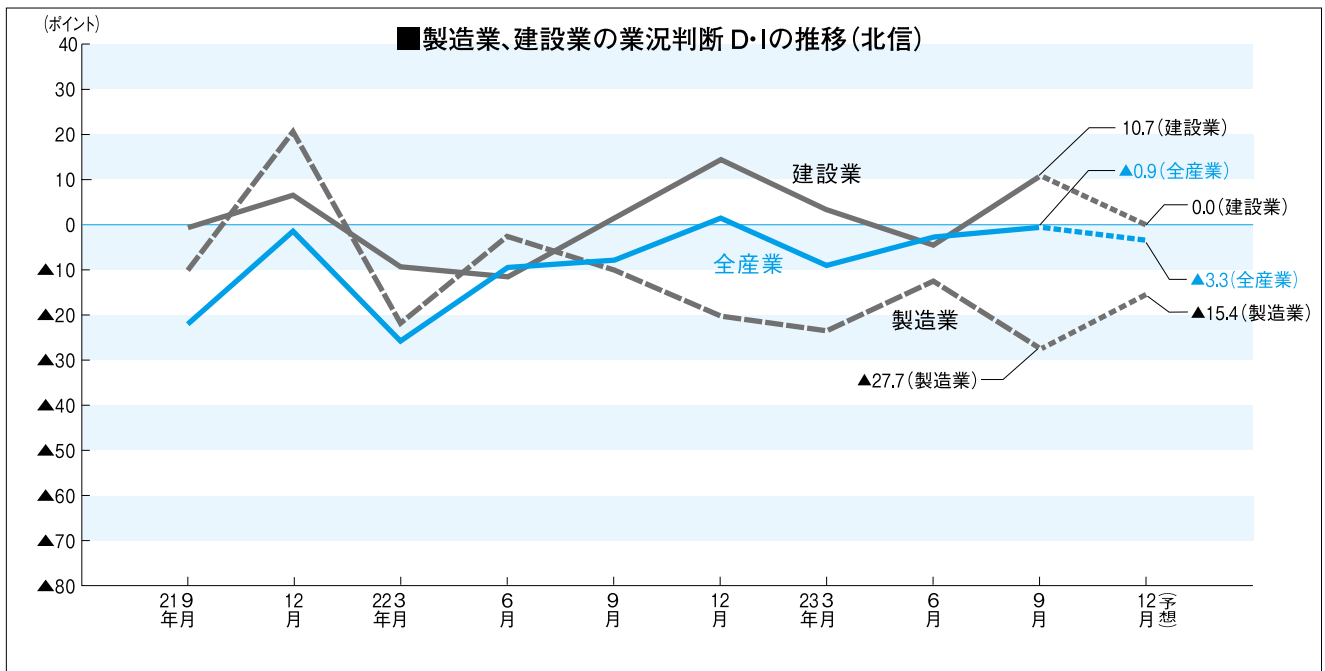
	売上高D・I(「増加」-「減少」)		収益判断D・I(「増益」-「減益」)	
	前期	今期	前期	今期
全産業	+2	+6(改善)	▲6	▲3(改善)
製造業	▲8	▲12(悪化)	▲17	▲6(改善)
非製造業	+5	+14(改善)	▲1	▲2(悪化)

●北信地区の業況判断D・Iの推移

	2022年12月	2023年3月	6月	9月	12月(予想)
全産業	+1.4	▲9.0	▲2.9	▲0.9	▲3.3
製造業	▲20.3	▲23.1	▲12.6	▲27.7	▲15.4
非製造業	+11.4	▲2.8	+1.3	+10.9	+2.2

[調査要領]

- 調査実施……2023年9月
- 調査対象企業(回収)
 - 建設業……66社
 - 製造業……65社
 - 卸小売業……40社
 - サービス業……41社
- 回収率……86.2%
- 従業員規模
 - 30人未満……75.4%
- 分析……D・I判断指数を中心に分析
- 合計……212社



製造業の景況

15ポイント悪化して▲28に、来期は改善の予想

製造業の7～9月期の業況判断D・Iは▲28で、前期(▲13)に比べ15ポイント悪化となりました。10～12月期は今期より12ポイント改善の▲15の予想です。

(前期)	4～6月期	▲13
◆業況判断D・I	(今期) 7～9月期	▲28
	(来期) 10～12月期	▲15(予想)

◇業種別業況判断D・I

改善	木材木製品・自動車部品・電気機械
悪化	食料品・金属加工・精密機械

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲6 (11ポイント改善)

「増益」割合 前期 17% → 22% (5ポイント増加)

「減益」割合 前期 34% → 28% (6ポイント減少)

◆現在の採算状況…改善

「利益確保」 前期 33% → 36% (3ポイント増加)

「収支トントン」 前期 55% → 53% (2ポイント減少)

「赤字」 前期 13% → 11% (2ポイント減少)

企業からのコメント

☆★原材料・エネルギー価格は落ちついて来ているが、ウクライナ情勢の影響により、一部で受注が減少している。(プラスチック製品)

★エアコン部品の生産調整が9～10月以降に始まるので、受注は減少の見通し。(空調部品加工)

☆★10月以降に輸入小麦の売渡価格が11%下がるため、多少値下がる予想だが、豚肉の値上がりが止まらず、なかなか原価は下らない。(中華めん)

★今年の夏が暑すぎたせいも、弊社を含めギフト業界全体の売上は振るわなかった。(乾麺)

建設業の景況

16ポイント改善して+11に、来期は悪化の予想

建設業の7～9月期の業況判断D・Iは+11で、前回(▲5)に比べ16ポイント改善しています。10～12月期は今期より11ポイント悪化の±0の予想です。

(前期)	4～6月期	▲5
◆業況判断D・I	(今期) 7～9月期	+11
	(来期) 10～12月期	±0(予想)

◇業種別	総合建設	前期 +20 → +10(10ポイント悪化)
	土木工事	前期 ▲31 → ±0(31ポイント改善)
	建築	前期 ±0 → +9(9ポイント改善)
	各種設備	前期 ▲9 → +25(34ポイント改善)

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲11(9ポイント悪化)

「増益」割合 前期 21% → 15%(6ポイント減少)

「減益」割合 前期 22% → 26%(4ポイント増加)

◆現在の採算状況…横ばい

「利益確保」 前期 51% → 55%(4ポイント増加)

「収支トントン」 前期 46% → 43%(3ポイント減少)

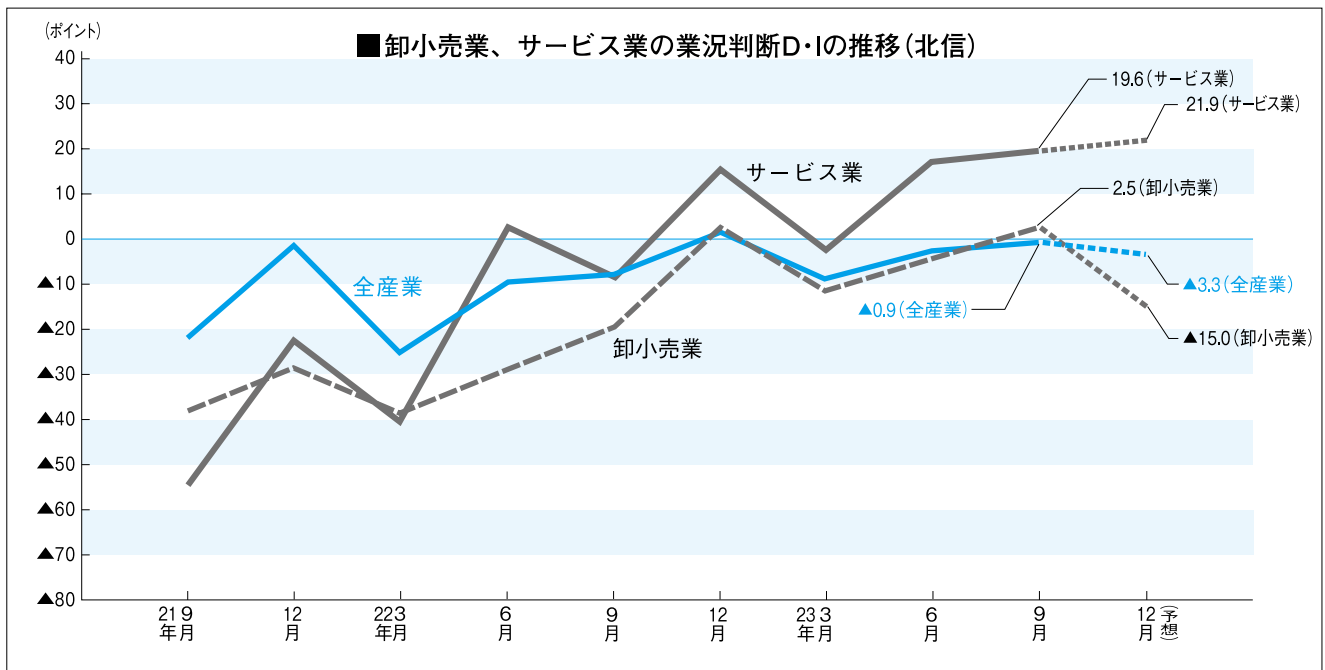
「赤字」 前期 3% → 2%(1ポイント減少)

企業からのコメント

★秋口となり建売業者も苦戦が予想される。ほぼ中心地の立地の良い場所でなければ、完売にならなくなっている。

★資材価格は下がらず、外注等も人手不足の状態が続いている。(総合建設)

★人手不足や価格転嫁が不透明な中、利益率確保のために、「選別受注」も視野に入れた営業活動を行っていききたい。(内装仕上)



卸小売業の景況

8割改善の+3、来期は悪化の予想

卸小売業の7～9月期の業況判断D・Iは+3で、前回(▲5)に比べ8割改善しました。10～12月期の業況判断D・Iは18割悪化の▲15の予想です。

◆業況判断D・I	(前期) 4～6月期 ▲5
	(今期) 7～9月期 +3
	(来期) 10～12月期 ▲15(予想)

◇業種別	卸売業	前期 ▲6 → ▲6 (横ばい)
	小売業	前期 ▲4 → +9 (13割改善)

◆収益判断D・I (「増益」-「減益」)...	±0 (18割改善)
「増益」割合	前期 7% → 25% (18割増加)
「減益」割合	前期 25% → 25% (横ばい)

◆現在の採算状況...悪化	
「利益確保」	前期34% → 28% (6割減少)
「収支トントン」	前期50% → 58% (8割増加)
「赤字」	前期16% → 15% (1割減少)

企業からのコメント

- ★物価高の影響からスーパー関連において、消費者の買い控えが目立って来ている。(青果卸)
- ★春先の“遅霜”の影響で果樹の収穫量が昨年の半分以下のため、年末の商品確保に課題が残る。(果物卸)
- ★営業区域が山手のホテル・旅館等なので、人手不足で販売員が足りていない。(飲料・食料卸)
- ★冠婚葬祭での生花の需要がコロナ禍以後に激減した。アフターコロナになっても回復せず、この先不安でしかない。(花卉卸)

サービス業の景況

3割改善の+20、来期も改善の予想

サービス業全体の7～9月期の業況判断D・Iは+20で、前回(+17)と比べ3割改善しました。業種別では、輸送・タクシー・運輸・外食・観光が改善し、不動産が悪化しています。10～12月期の業況判断D・I(予想)は2割改善の+22です。

◆業況判断D・I	(前期) 4～6月期 +17
	(今期) 7～9月期 +20
	(来期) 10～12月期 +22(予想)

◇業種別業況判断D・I	
サービス	前期 +25 → ±0 (25割悪化)
輸送	前期 ▲11 → ±0 (11割改善)
タクシー	前期 +33 → +100 (67割改善)
運輸	前期 ▲33 → ▲29 (4割改善)
外食	前期 +50 → +67 (17割改善)
観光	前期 ▲43 → ▲17 (26割改善)
不動産	前期 +56 → +30 (26割悪化)

企業からのコメント

- ★コロナが5類になっても、活気が以前のように戻らず、荷動きは悪いままで青果物関係も期待薄。(トラック輸送)
- ☆★長野市内の土地価格は、場所によっては異常と思えるほど上昇している所もある。(不動産)
- ☆★“各自自治体割”が終了して、これからのシーズンが正念場だと思う。食事なしの宿泊客が非常に多くなっている。(旅館)
- ★“原油高”や“2024年問題”に対しての対応に、苦慮している企業が多いように思う。(トラック)

雇用情勢 7～9月期

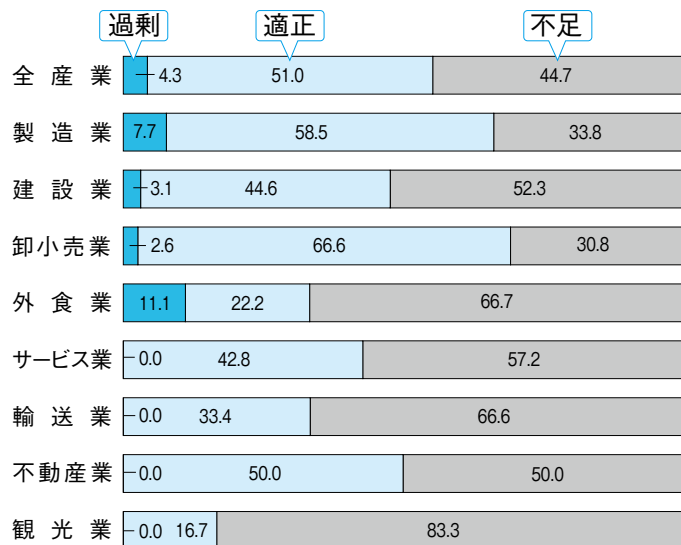
卸小売・外食・サービス・輸送・不動産が改善

従業員の過不足感(「過剰」-「不足」)は、全産業で▲40となり、前回(▲43)に比べ3割改善しています。

雇用情勢 (「過剰」-「不足」)

業種	前期(4～6月)	今期(7～9月)
全産業	▲42.6	▲40.4
製造業	▲23.9	▲26.1
建設業	▲47.7	▲49.2
卸小売業	▲39.6	▲28.2
外食業	▲75.0	▲55.6
サービス業	▲62.5	▲57.2
輸送業	▲77.7	▲66.6
不動産業	▲62.5	▲50.0
観光業	▲57.2	▲83.3

従業員の過不足感 (%)



(資料:当金庫)

資金繰り 7～9月期

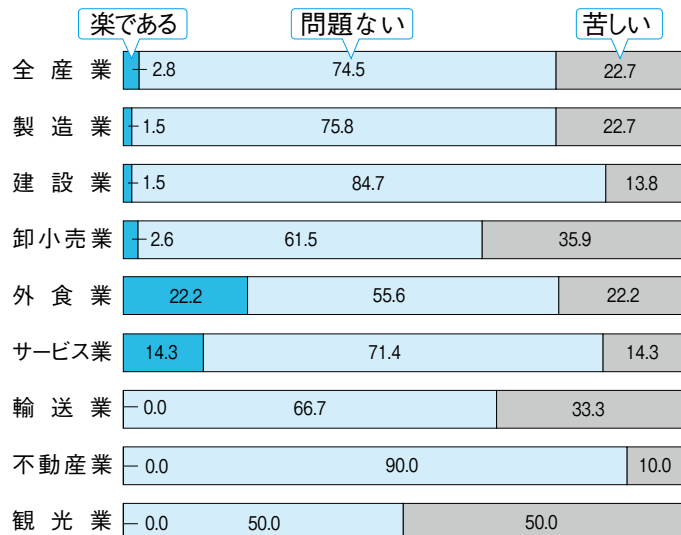
建設・外食・サービス・輸送・観光が改善

資金繰り状況判断(「楽である」-「苦しい」)は、全産業で▲20となり、前回(▲21)に比べ1割改善しています。

資金繰り (「楽である」-「苦しい」)

業種	前期(4～6月)	今期(7～9月)	来期(10～12月)
全産業	▲21.0	▲19.9	▲19.7
製造業	▲15.6	▲21.2	▲22.2
建設業	▲19.0	▲12.3	▲20.0
卸小売業	▲22.8	▲33.3	▲18.0
外食業	▲12.5	±0	±0
サービス業	▲25.0	±0	±0
輸送業	▲44.4	▲33.3	▲44.4
不動産業	±0	▲10.0	±0
観光業	▲71.4	▲50.0	▲50.0

資金繰り状況感 (%)



(資料:当金庫)

販売価格動向 7～9月期

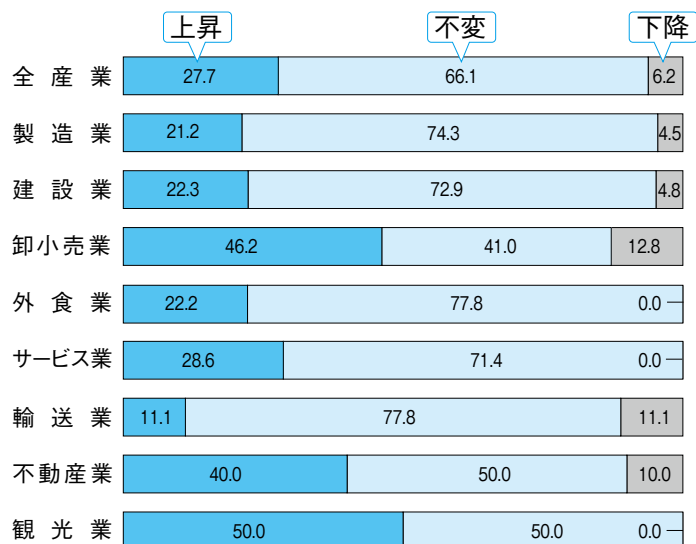
観光のみが上昇

販売価格動向(「上昇」-「下降」)は、全産業で+22となり、前回(+31)に比べ10割悪化しています。

販売価格動向 (「上昇」-「下降」)

業種	前期(4～6月)	今期(7～9月)	来期(10～12月)
全産業	+31.4	+21.5	+22.8
製造業	+25.3	+16.7	+18.8
建設業	+27.9	+17.5	+14.3
卸小売業	+40.9	+33.4	+44.7
外食業	+62.5	+22.2	+22.2
サービス業	+37.5	+28.6	±0
輸送業	+11.1	±0	+22.2
不動産業	+33.3	+30.0	+30.0
観光業	+42.9	+50.0	+33.3

業種別販売価格動向(対前期) (%)



(資料:当金庫)

ポストコロナ時代の「経営上の懸案事項」

「人材や人手不足」54% 「収益性の低下」41% 「市場の衰退や変動」37%
 「調達先や供給量の変化」20% 「従業員の働き方の変化」18%

企業アンケート
 「ポストコロナ時代の企業経営」①
 2023年9月調査

企業のDX化推進に向けて「IT人材の状況」

「足りている」11% 「不足している(内部育成で対応予定)」28%と
 「不足している(外部人材採用で対応)」19%を合算した「不足している」は47%

ポストコロナの時代へと移行するなか、「経営上の懸案事項」上位5項目は「人材や人手不足」54%、「収益性の低下」41%、「市場の衰退や変動」37%、「調達先や供給量の変化」20%、「従業員の働き方の変化」18%でした。

企業のDX化推進に向けて、「IT人材の状況」

「足りている」11%、「不足している(内部育成で対応予定)」28%と「不足している(外部人材採用で対応)」19%を合算した「不足している」は47%、「既に外部委託している」8%、「IT人材の必要性を感じていない」10%、「その他」1%、「分からない」との回答も22%となりました。

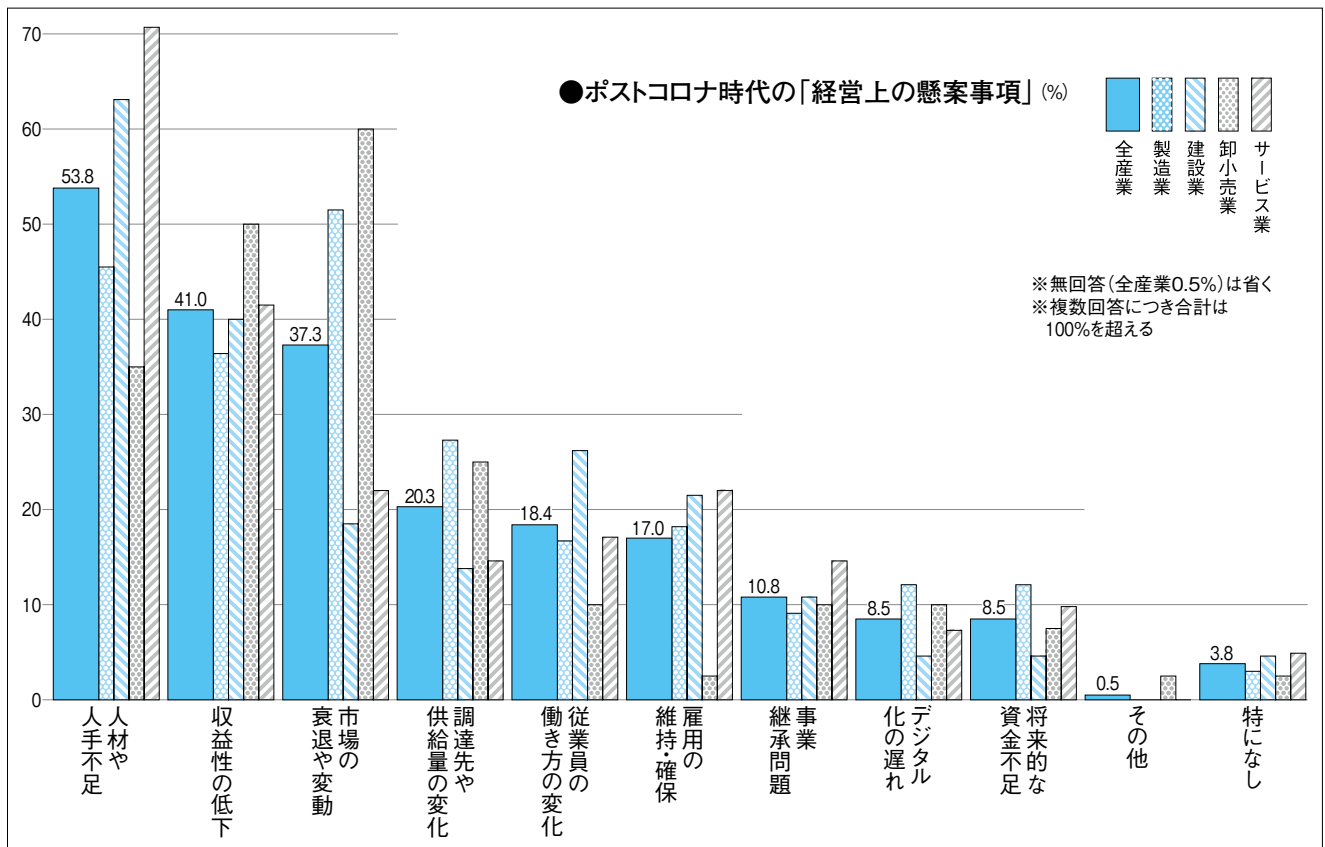
ポストコロナ時代の「経営上の懸案事項」

- 「人材や人手不足」54%
- 「収益性の低下」41%
- 「市場の衰退や変動」37%
- 「調達先や供給量の変化」20%
- 「従業員の働き方の変化」18%

「ポストコロナの時代へと移行するなか、経営上の懸案事項」を聞きました。

「人材や人手不足」(54%)がトップで、以下「収益性の低下」(41%)、「市場の衰退や変動」(37%)、「調達先や供給量の変化」(20%)、「従業員の働き方の変化」(18%)、「雇用の維持・確保」(17%)、「事業継承問題」(11%)が2ケタとなり、「特になし」は4%でした。

従業員規模で見ると、30人未満の「市場の衰退や変動」(39%)と「事業継承問題」(13%)がともに9割、「特になし」(5%)が5割、30人以上より高



く、30人以上は「人材や人手不足」(67%)が18割、
「従業員の働き方の変化」(29%)が14割、「調達先
や供給量の変化」(27%)が9割、それぞれ30人未
満より高くなっています。

◇4業種の状況

製造業 「調達先や供給量の変化」(27%)、「デ
ジタル化の遅れ」と「将来的な資金不足」(ともに12
%)は他業種に比べ最も高く、他方「収益性の低下」(36%)、「事業継承問題」(9%)は他業種に比
べ最も低くなっています。

建設業 「従業員の働き方の変化」(26%)は他業
種に比べ最も高く、他方「市場の衰退や変動」(19
%)、「調達先や供給量の変化」(14%)、「デジタル
化の遅れ」と「将来的な資金不足」(ともに5%)は
他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 「市場の衰退や変動」(60%)、「収益性
の低下」(50%)は他業種に比べ最も高く、他方「人
材や人手不足」(35%)、「従業員の働き方の変化」
(10%)、「雇用の維持・確保」と「特になし」(とも
に3%)は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 「人材や人手不足」(71%)、「雇用の
維持・確保」(22%)、「事業継承問題」(15%)は他
業種に比べ最も高くなっています。

企業のDX化推進に向けて「IT人材の状況」

「足りている」11%
「不足している(内部育成で対応予定)」28% } 計47%
「不足している(外部人材採用で対応)」19%

「企業のDX化推進に向けて、IT人材の状況」に
ついて聞きました。

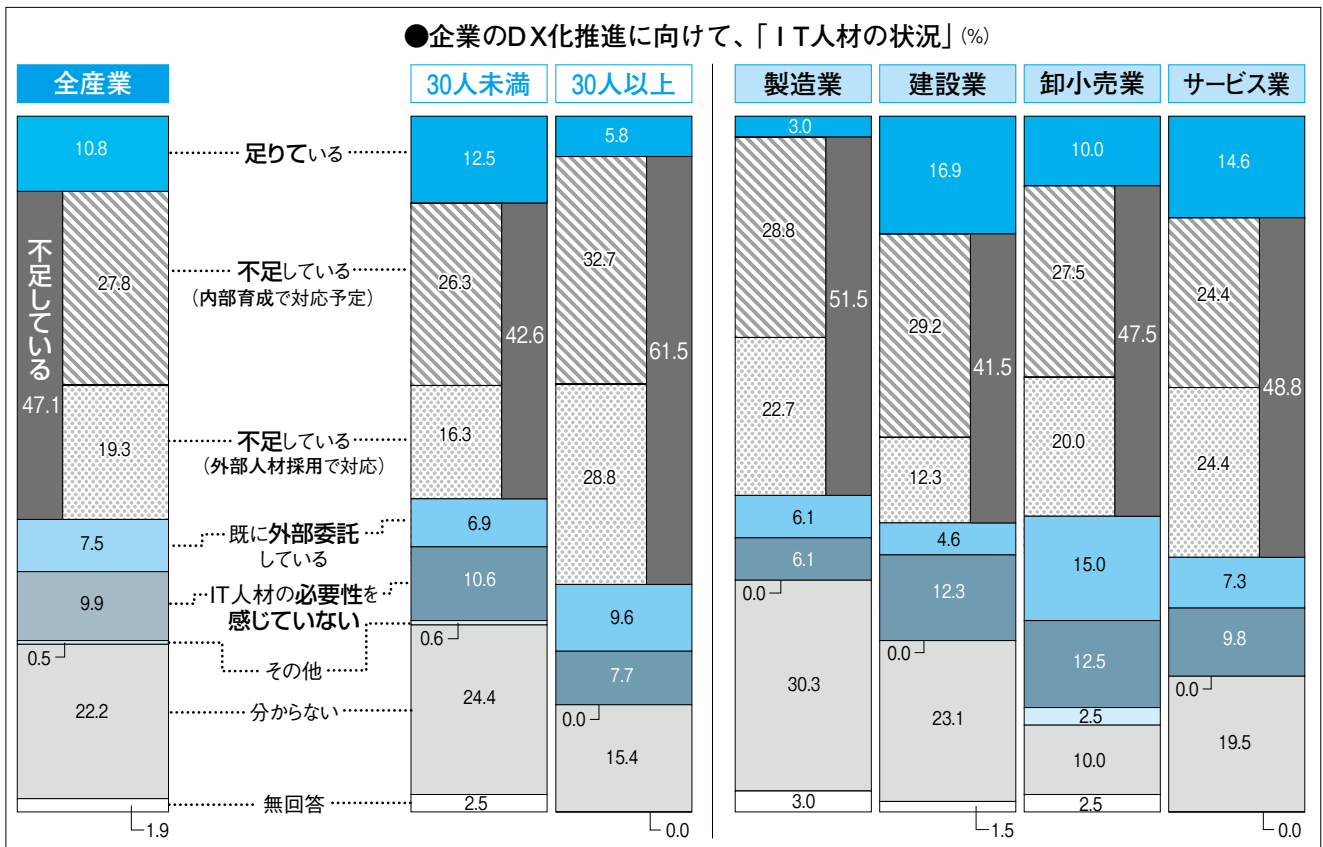
「足りている」は(11%)ですが、「不足している
(内部育成で対応予定)」(28%)と「不足している(外
部人材採用で対応)」(19%)を合算した「不足してい
る」は、半数弱の(47%)。「IT人材の必要性を感じ
ていない」は(10%)、「既に外部委託している」は
(8%)、「分からない」は(22%)という結果となり
ました。

従業員規模で見ると、30人未満は「足りてい
る」(13%)が7割、「分からない」(24%)が9割、30
人以上より高く、30人以上は「不足している」(62
%)が19割、30人未満より高くなっています。

◇4業種の状況

製造業 「不足している」(52%)は他業種に比べ
最も高く、他方「足りている」(3%)は他業種に
比べ最も低くなっています。

建設業 「足りている」(17%)は他業種に比べ最
も高く、他方「不足している」(42%)は他業種に比



べ最も低くなっています。

卸小売業 「既に外部委託している」(15%)、「IT人材の必要性を感じていない」(13%)は他業種に比べ最も高く、他方「分からない」(10%)は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 「足りている」(15%)は建設業に次いで2番目、「不足している」(44%)は製造業に次いで2番目、「既に外部委託している」(7%)は卸小売業に次いで2番目になっています。

◇次号は「今後の事業展開」と「原材料エネルギー価格」の上昇と「商品の価格値上げ」についてを予定

[調査要領]

実施期日：2023年9月上旬～中旬

実施方法：第193回景況アンケート調査に併記

調査企業：回収212社(製造業66社、建設業65社、卸小売業40社、サービス業41社)

うち従業員30人未満160社(75.5%)

「ポストコロナの企業経営」に関する企業からのコメント

製造業

◇内需が減少し「人の動き」を見ながら、新しく事業を展開していくことが必要となる。(食料品)

◇メーカーの新製品が以前より減少している。結果として受注減につながる。(ダンボール用印刷)

◇売上の低下などもあるが、従業員の働き方が変わったことが大きいと思う。(空気圧縮機製造販売)

◇コロナの感染による休業者が複数の場合は、生産に支障が出る。間接的影響はそれほどなかった。(プリント基板)

◇コロナはまだ完全に終息していないが、ようやく改善して来た。再発(再流行)の防止に努め、経済活動の推進を図っていく。(視力測定機)

◇人手は常にギリギリのため、忙しい時期に従業員やその家族にコロナ患者が出ると、既定の日数を休ませざるを得ず影響が大きい。全体にシワ寄せが来るリスクは潜在している。(乾麺)

◇客数の減少やお酒の売上減少、飲み会帰りのお客様の減少などがある。原材料の価格は、いつ安定するののかも不透明で影響は計りしれない。(中華麺)

建設業

◇新型コロナも一時は相当の脅威だったが、5類に移行になったことで落ち着きが見られ、心配はある程度軽減していると思う。

◇コロナ禍では、お客様の自宅を訪問してのセールスが出来ず、相手の顔が見えない営業等で戸惑うことがあった。(建築業)

◇当社においてコロナ禍のときは売上減少となったが、5類に移行後は回復。良い影響はリモートでも事務職・営業職が出来ることが判明した。(内装仕上)

◇これから冬場に向けて、個人の住宅建設・購入のムードが下がって行く。また、物価高の影響もあり、これからの季節をどう乗り切るか重要問題である。(総合建設)

卸小売業

◇コロナ禍を経験して、人々の行動から無駄が排除される傾向が強まったと感じる。(婦人服卸)

◇コロナの影響は業界毎に違いはあるが、落ち着きつつあり、借入の関係等の出口戦略をどうしていくか考える必要があると思う。(自動車整備・販売)

◇コロナによって各種スポーツ大会や学校行事が中止となれば、売上の減少は明白の理。アフターコロナの世の中になって、各スポーツ大会が開催される様になり希望が出て来た。(スポーツ用品)

◇巣ごもり需要がなくなり、コロナ前より厳しくなった感じが強い。この業界においては、原材料等の値上げが商品に転嫁できていない。(花卉卸)

◇コロナよりも現時点においては、物価高の方が影響が大きい。(飲料・食料卸)

サービス業

◇企業ごとの特性や強みを伸ばし、差別化を図って行かなければ、事業の継続は難しいと考える。(温泉旅館)

◇コロナの感染者が増加傾向にあり、キャンセルが相次いでいる。(日本旅館)

◇団体旅行の減少が顕著。時代の変化もあるが、個人客向けにシフトチェンジする過渡期になっていると思われる。(旅館)

◇人手が足りないところに対してのコロナによる欠勤者の増加で仕事が滞り出し、余計な費用増加で利益が低下している。(トラック輸送)

◆日本の人口が「急速に減少している現状」
 「増加するよう積極策を実施すべき」70% 「現状維持を図るべき」12%
 「人口減少に得策はない」11%

生活者アンケート
 「少子化問題」①
 2023年9月調査

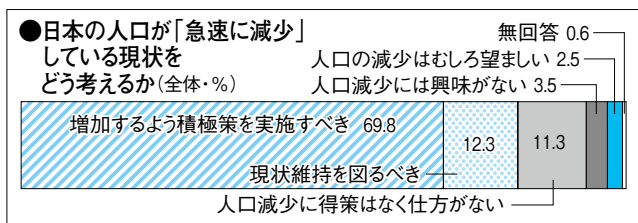
◆少子化が「加速している原因」
 「結婚しない男女の増加」59% 「出産・育児の費用が多額」41%
 「女性の経済力の向上、結婚観の変化」30% 「多様な自由を尊重する風潮」29% 「子育てと仕事が両立できない」27%

「長野県の出生率が過去最低となり、日本の人口が急速に減少している現状」に対する意見を聞きました。

「増加するよう積極策を実施すべき」70%、「現状維持を図るべき」12%、「人口減少に得策はなく仕方がない」11%、「人口減少には興味がない」4%、「人口の減少はむしろ望ましい」3%となりました。

男女別では、男性は全体と比べ、順位に入れ替わりはありますが、ほぼ同様になっています。女性は全体と同様の順となりました。

世代別では、全体と比べ、30～40代で順位に入れ替わりはありますが、ほかは、全体と同様の順位となりました。



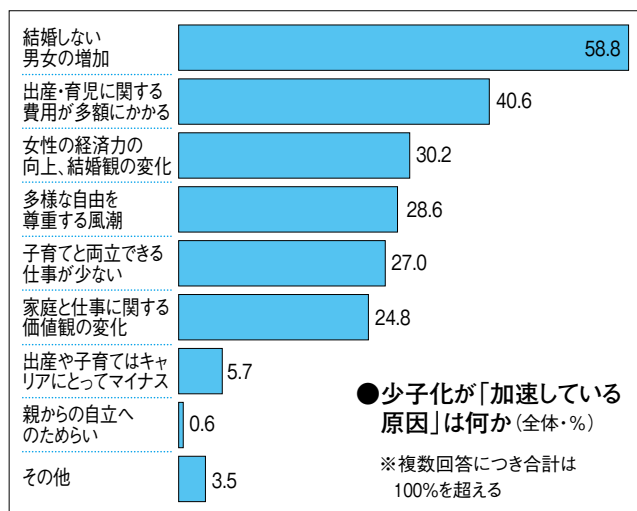
「少子化が加速している原因」を聞きました。

全体の上位5項目は、「結婚しない男女の増加」59%、「出産・育児に関する費用が多額にかかる」41%、「女性の経済力の向上、結婚観の変化」30%、「多様な自由を尊重する風潮」29%、「子育てと両立できる仕事が少ない」27%となりました。

男女別は、男性は全体と比べ、多少入れ替わったほかは同様になり、女性は「結婚しない男女の増加」「女性の経済力の向上、結婚観の変化」「出産・育児に関する費用が多額にかかる」「家庭と仕事に関する価値観の変化」「子育てと両立できる仕事が少ない」

の順位となりました。

世代別の上位3項目は、10～20代は「出産・育児に関する費用が多額にかかる」「結婚しない男女の増加」「子育てと両立できる仕事が少ない」の順位になりました。30～40代は「結婚しない男女の増加」「出産・育児に関する費用が多額にかかる」「女性の経済力の向上、結婚観の変化」の順位になりました。50代以上は「結婚しない男女の増加」「多様な自由を尊重する風潮」「出産・育児に関する費用が多額にかかる」の順位となりました。



【調査要項】

実施期日：2023年9月上旬～中旬
 実施場所：長野信用金庫本支店窓口
 調査数：318人(男性213人・女性105人)
 調査要領：アンケート用紙に記述(無記名)

「少子化問題」に関する生活者からのコメント

- ◇増税が繰り返されるものの、賃金が上がらず日本の将来に期待を持ってない人が増加しているため、少子化はますます進むと思う。(20代女性)
- ◇安心して子育てができるための行政の政策、労働者の賃金アップが必要だと感じる。(20代男性)
- ◇少子化問題は、金銭面での補助を行うだけでは解消されないと思う。子育て環境や職場環境等、多方面での改善が求められる。(30代女性)
- ◇少子化対策を実施しながら、人口減少の状況でも成立する社会の構築が重要。(30代男性)
- ◇大学学費の無償化も必要だと思う。(40代男性)
- ◇今の若者は経済的な問題で、結婚・子育てをあきら

- めているという情報・報道があまりにも多い。もっと成功体験を報道して欲しい。(50代女性)
- ◇フランスは少子化対策に成功している。こうした先進国の成功例を参考に、国策に取り組むことが喫緊の課題だと思う。(50代男性)
- ◇子どもを産みながらも仕事を続けられ、キャリアとして仕事に勤めることができる社会づくりを望む。(60代以上女性)
- ◇結婚をしない世代が増え、子どもが少なくなっている。積極的な行政の支援で、若者が結婚する機運を支えたい。(60代以上男性)

北信濃 明治時代の風景

(19) 石堂町周辺

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



旧北国街道

これは明治14年(1881)に出版された「善光寺長野町図」の、石堂町周辺の部分です。右上が北です。右上(北)から左下(南)に直線の道路が通っていますが、これは旧北国街道で、現在の長野市の中央通りです。北国街道は中山道の追分宿(軽井沢町追分)から、小諸、上田、坂木(坂城)、戸倉、矢代(屋代)、丹波島を経て善光寺に突き当たります。さらに現在の相ノ木通りを通り、新町(若槻地区)、牟礼、古間、柏原、野尻を経て越後に通じています。金沢と江戸を結ぶ大事な街道でした。また佐渡と江戸を結ぶ道でもありました。現在の中央通りは、大正13年(1924)に拡幅された通りです。

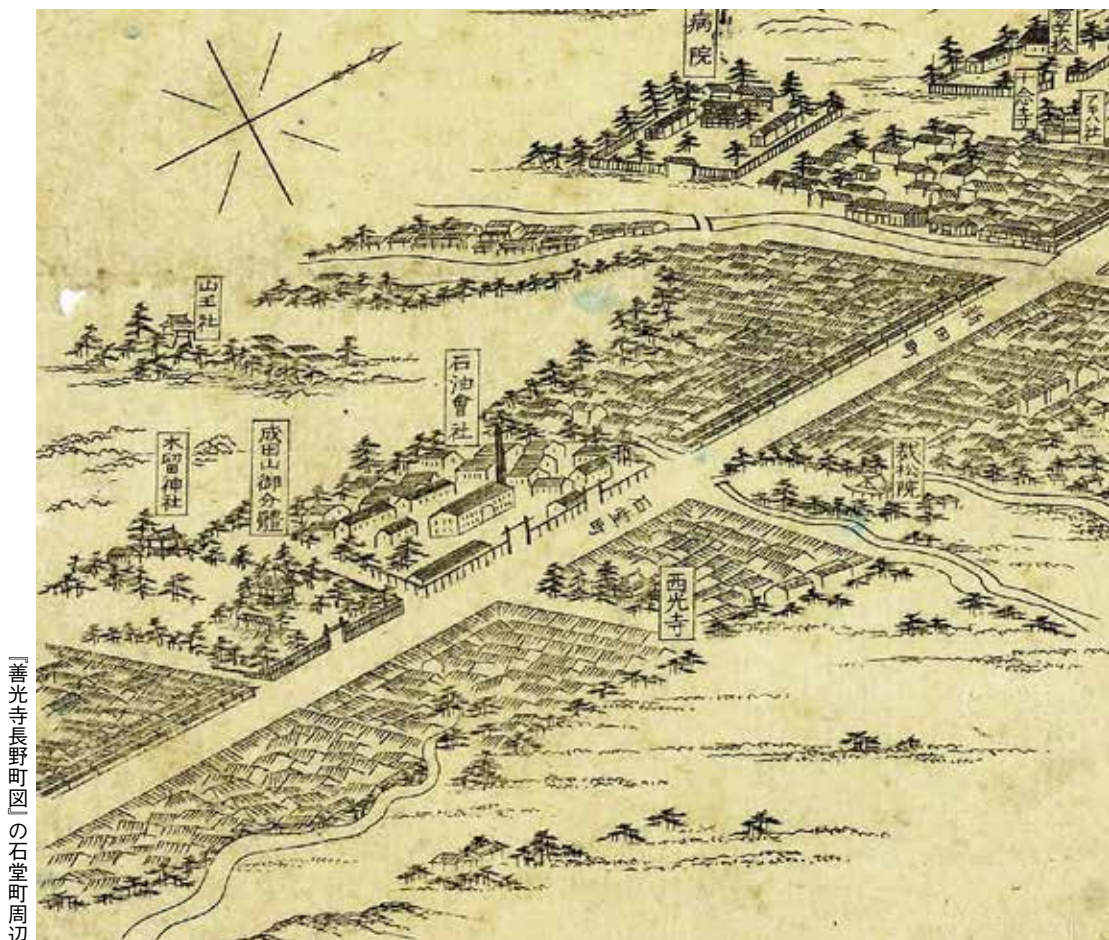
石堂町

善光寺の門前町の南の入口です。現在は北石堂町と南石堂町の2町に分割されていますが、これ

は明治21年(1888)に長野駅が開業して門前町が南に発展したためです。石堂町が2町に分割されたのは明治41年(1908)のことで、当時は石堂町北区、石堂町南区と呼びました。この図が描かれた当時の石堂町は、現在の二線路通りの交差点から北(北石堂)が主で、南はまだあまり発展していませんでした。

新田町

新田町は石堂町の北に続く町ですが、中央通りの西側が主で、東側は問御所町です。元々裾花川は、現在の新田町交差点付近を東に向かって流れていました。裾花川は江戸時代の初めに現在のように南に向かって流れるように改修され、旧流路に新田が開かれたので、新田町の地名が起こったとされています。石堂町と新田町は、江戸時代には妻科村の一部でした。妻科村は、この図が描か



「善光寺長野町図」の石堂町周辺

れた明治14年(1881)に南長野町と改称しました。したがってこの図の石堂町も新田町も、まだ長野町の一部ではなかったのです。長野町が南長野町、西長野町、鶴賀町、茂菅村を合併して大きくなったのは、明治22年(1889)のことです。

石油会社

石堂町に「石油会社」があって、高い煙突を中心にたくさんの建物が描かれています。これは「西光寺」と道路を挟んだ向かい側にあるように描かれていますが、実際には200mほど南の、現在の西友南石堂店の場所にありました。

この石油会社を開いたのは、現在の飯山市桑名川出身の石坂周造(1832~1903)です。石坂は江戸に出て、幕府の侍医石坂宗哲の養子となり、尊王攘夷運動に加わりました。そのため投獄されて明治維新を迎えました。長野村近くの浅川地区に石油が出ることを知り、石堂町のかるかや山西光寺を借りて明治4年(1871)に長野石炭油会社を開きました。浅川から原油を運んで、西光寺で灯油を製造したのです。これは日本で最初の石油会社でした。この会社は明治8年(1875)に南石堂に社屋を新築して移転しました。この図に描かれているのは、その石油会社の社屋です。

西光寺には、長野石炭油会社の社員だった鳥倉格次の墓が残っています。

西光寺

北石堂町にある浄土宗の寺で、「西光寺」という寺号よりも「かるかや山」という山号で親しまれています。九州博多出身の刈萱道心と石童丸親子の物語が、絵解きによって語られてきた、全国でも珍しい寺です。本尊は刈萱道心と石童丸によって刻まれたという親子地藏尊で、その一体は長野市指定有形文化財となっています。

裁松院

西光寺の北にある「裁松院」は、「裁松院」の誤記です。問御所町の南端にある曹洞宗の寺院で、地



かるかや山西光寺に残る長野石炭油会社社員の墓

元では「しまんりょう」と呼ばれてきました。千歳町通りと中央通りを結ぶ「しまんりょう小路」の名は、この「しまんりょう」に由来しています。この図に描かれているように、裁松院は2本の川に挟まれて島のようになっているので、「島の寮」から「島ん寮」となったと言われています。「寮」とは、僧の住む建物のことです。

山王社

「石油会社」の裏に、「山王社」が描かれています。この神社は現在はありませんが、地名として残り、山王小学校、山王保育園など、「山王」を冠した施設があります。ここは山王館跡やまかたと呼ばれる中世の城館跡で、栗田を本拠とする栗田氏の出城だったと考えられます。そのためかその境内は栗田村の飛び地でした。この神社の正式名称は水内惣社日吉大神社でした。明治41年(1908)に栗田地区の神社が1社に統合されて栗田城跡にまつられた時、この水内惣社日吉大神社の名称が栗田の神社の名称として採用されました。

木留神社と成田山御分体

おもしろいことに、この図には遠く離れた若里村荒木の寺社と一緒に描かれています。善光寺七社の1つ木留神社と蓮心寺(成田山御分体)です。10月号は「後町周辺」の予定です。

この頁は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)

◆少子化がもたらす影響で、「問題」だと思うこと

「年金や医療費等、社会保障への影響」69%

「労働生産性の低下」58% 「地域社会の活力低下」39%

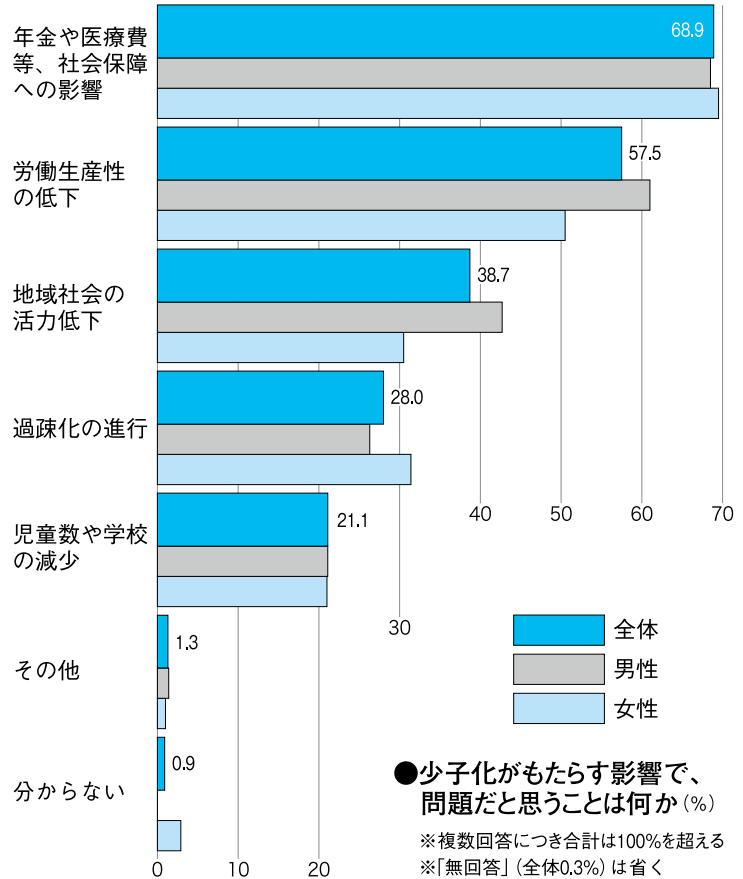
「少子化がもたらす影響で、特に問題だと思うことは何か」を聞きました。

全体の上位を見ると、「年金や医療費等、社会保障への影響」69%、「労働生産性の低下」58%、「地域社会の活力低下」39%までが上位3項目(1～3位)となり、次いで「過疎化の進行」28%、「児童数や学校の減少」21%までが2桁となりました。

男女別で上位を見ると、全体と比べ、男性、女性ともにほぼ同様の結果となっています。

世代別で上位を見ると、全体と比べ、全ての世代でほぼ同様の結果となりました。

〈当金庫・2023年9月調査〉



●みなさまの税務相談のご案内 [11月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日		午前	午後	開催日		午前	午後
11月 2日	木	城北支店 (若槻支店)	柳原支店 (東長野支店)	11月 16日	木	屋代支店 (稲荷山支店)	戸倉支店 (上山田支店・坂城支店)
7日	火	大豆島支店 (長池支店)		17日	金	若穂支店	小布施支店 (中野支店)
8日	水	南支店 (七瀬支店)	吉田支店 (古里支店)	22日	水	大門町支店 (桜枝町支店)	善光寺下支店 (権堂支店)
9日	木	墨坂支店 (須坂支店・太子町支店)	飯山支店 (山ノ内支店)	24日	金	本店営業部	
13日	月	更北支店 (松代支店)	伊勢宮支店 (石堂支店)	28日	火	本 部	
14日	火	篠ノ井支店 (川柳支店)	川中島駅前支店 (川中島支店)	29日	水	本 部	

